太田東西かわら版　２０１９．４

We are the champions!

写真の植村くんは今春、高校に進学します！！＼(^o^)／
１年前、「進学できる高校はないでしょう」。学校から“宣告”されていました。
無理もありません。通知表は５教科オール１。
おまけに１の横にはすべて「努力を要する」のマークが・・・・(　□　┆┆)

植村くんの学力は、病気に例えればステージ４の末期がん。
医者から“余命宣告”を受けた危機的状態です。
しかし太田東西薬局は、「無理」「不可能」「絶望」というレッテルを、権威ある人物から貼られていればいるほど、燃え上がります！！
病院で「回復する見込みはありません」と診断されたお客様を、地味ではありますがコツコツ救って来ましたからね。
家庭教師も塾もお手上げだった植村くんを、１年間みてあげることにしました。

結果、植村くんは見事に志望校に合格できました。
「勝因は何ですか？」という質問には、２つお答えします。
１つは“やる気”を生みだす取り組みをしたこと。それは１年前の太田東西かわら版に記しました。http://www.ohta-tozai.com/pdf/kawara2018.2.pdf#zoom=100
「内発的動機付け」です。**他人に言われてではなく、自分から勉強したいという**内発的動機付けに成功したから、合格という結果が得られました。
しかし、この内発的動機付け完成までが大変な道程であり、導く側には相当の**「根気・平常心・知恵」**が求められます。

「こんな成績ではどこの高校にも行けないぞ！」「中卒の肩書で雇ってもらえる会社なんかないぞ！」　そう大人に言われて「よし！勉強頑張るぞっ！」と、子どもがやる気になって成績が上がったという事例を私は知りません。
内発的動機付けさせるためには、子ども自身に**『わかる・できるということの楽しさ』『勉強することの楽しさ』**を実感させることです。

１年前の４月のスタート時、私は数学ではなく小学３年生の“算数”から教えました。
「これもできない・・」ではなく「これはできる！」という成功体験を蓄積するために。
植村くんは　－２＋５＝－７　と解いていました。
頭が悪いのではありません。
－（２＋５）＝－７だと「思い込んでいた」のです。
それでは本人が「解けた」と思っても、結果は×。

これは植村くんをバカにできる話ではありません。
なかなか幸せになれない人というのは、自分は正しいと思ってそれをやっている。でもそれは正しいという「思い込み」であって、健康で幸せな人からすると、大きく間違った考え方・生き方をしている。それと全く同じです。
「自分ができない根本原因は何か？」「自分は何を、どこを間違えているのか？」
私は植村くんに算数を教えながら、それに気づかせていきました。

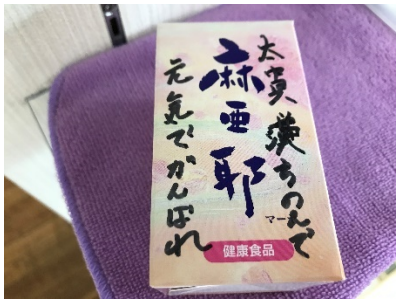
結果、１学期の通知表は・・・・・・・・・・　変わらず「オール１」でした。
しかし私は焦ってはいませんでした。成績結果ではなく、「内発的動機付け完成」を予定通り築いていましたから。

夏休み前に「おまえが望むなら、薬局開ける前の１時間勉強みてやってもいいぞ。どうする？」
植村くん、「お願いします！」の即答。お盆も休むことなく（薬局は休んでも）みてあげました。

私らしい教え方は、**体の状態も考えている**点です。
ある時、酸素飽和濃度を測ると９５％と低くなって
徐脈（脈拍５０代）になっていました。
これでは記憶力集中力は低下。能率は上がりません。

そこで・・・・
その場ジョギングをさせたりしました(笑)

植村くんはマーヤも
きちんと飲んでいました。
そのマーヤは
おじいちゃんが
買ってくれて
いたのでした・・・(泣)



そのおじいちゃん、ある時
居ても立ってもいられずに
孫の勉強をみてあげようと・・・
結果、
「やっぱ難しか。全然わからん！
先生、孫の事よろしく頼みます！」
あっさり去って行かれました(笑)

さて、２つ目の勝因。それは**『家族力』**。

２学期が始まり、お母さんと３者面談。
「お子さんがどれほど難しい問題解いているか？
お母さん、楽勝で解けますか？太田先生にお世話に
なっているからきっと大丈夫なんて思っていたら
大間違いですよ！　親も一緒に勉強するんです！」
ガッツリ喝を入れました。

テレビやスマホを見ている親から「早く勉強しなさい！」「もっと頑張れよ！」と
言われることほど、子どもとって理不尽で腹立たしいことはありません。
「勉強しなさい！」ではなく、「一緒に勉強しよう！」と親子で学び合う。
難問が解けた喜びを親子でシェアする。そうした触れ合いこそが大切なのです。

お母さんは、息子をなんとかしてほしいと“外に”目を向けていました。
私はそれを厳しく注意しました。

息子を通じて、お母さんは大きく変わりました！
家庭教師や塾に、なんとかしてもらおうという依存心を反省したのです。自分がこの問題から逃げずに、自分が責任を持って行動するんだ！と。
ある時は漢方を求めに来ながらも
「先生、この因数分解、どうするんでしたっけ？」
お母さん、本気モードになっていました。
それに共鳴するように、植村くんは大晦日も元旦も薬局に来て勉強しました。

試験前には、お父さんも含めての４者面談。
「息子はあれこれ言われたくないと思うので私はそっと見守っています」
一見耳障りの良いお父さんのセリフでしたが、「お父さん、何言っているんですか！今こそ家族が一致団結する時。自信と安心感を与える家庭環境づくりに、お父さんも最大限に頑張る場面でしょう！」　私からガッツリ絞られました(^▽^;)。

　お父さん、素直に聞いてくださってのこのハチマキ写真！
ヽ(^o^)丿

すべては植村くんの“気分づくり”のためです。
最後まで頑張る！という内発的動機付けを、最高レベルに到達させるために。
その「内発的動機付け」と「家族力」はつながっていて、両者は比例関係です。
望ましい結果は、その２つが相乗効果で最高潮に達した時に得られる。

受験の合格に限らず、病気の全快も同じです。医者や教師に「全快（合格）は無理」と言われて、家族がそれをどう受け止め、そこからどう動くのか？
家族があきらめずに結束して、それを乗り越えようと努力できるかどうか？
植村さんご家族は太田東西薬局を通じてしっかりとまとまり、絆が強まっていった。
だから“合格”という結果を手に入れることができたと思います。

私からの受験前最後の授業は英語。
QUEEN の「We are the champions」の歌を歌い込め！というもの。
We　keep on fighting till the end
We are the champions　of the world

私たちは文字どおり“勝者（champions）”になったのでした～～！（涙）